

より密接な地域医療連携をめざして

地域医療連携室

Office of Community

だより

2020 VOL. 16

第3回 連携登録医のつどいを開催しました

令和元年11月2日(土)、橿原神宮 養正殿にて「第3回 連携登録医のつどい」を開催いたしました。当日は眩しいほどの秋晴れに恵まれ、街路の銀杏の葉も美しく色づくなか、合計49名の先生方にご参加いただき盛会裏に終了いたしました。



プログラム

[第1部] 講演会

- 奈良医大整形外科の最近の取り組み
宗本 充 奈良医大 整形外科講師
- 眼からアンチエイジング
緒方 奈保子 奈良医大 眼科教授
- 地域包括ケアの時代における
多職種連携の重要性とICTの活用
加藤 久和 宇陀地区医師会 会長

[第2部] 情報交換会

第1部の講演会では、整形外科の宗本充講師からは整形外科の最近の取り組みについて、眼科の緒方奈保子教授からは白内障と認知症との関係について、データやイラストでそれぞれ解説していただきました。また、宇陀地区医師会の加藤久和会長は、地域包括ケアの中での多職種連携の重要性やICTについて解説の後、「宇陀けあネット」の実際のシステム画面を使用して、多職種間での情報共有の工夫やその実例をご紹介くださいました。ご参加の先生方からは、「整形の全体像、紹介すべき患者について考えていただいていた。今後の紹介に役立てたいと感じました」「疫学データを背景に白内障への介入の必要性を学ばせていただきました」「僻地や高齢者の多い奈良における先進的な取り組み、勉強になりました」(当日実施のアンケートより)といった感想が聞かれました。

アンケートにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

第2部の情報交換会では昨年同様、奈良医大各診療科の医師等からひとことずつ挨拶をいたしました。また、今回は連携登録医の先生方もご登壇いただき、奈良医大に求めること、日頃の連携に関するご意見などをお聞かせくださいました。

吉治室長の「顔の見える連携を」という言葉の通り、日頃書面や電話で連絡している先生方が直接顔を合わせ、意見を述べ合う姿が会場内で多く見られました。

今後も当院は、奈良県における医療機関の中心として連携登録医の先生方とより緊密な関係を築き、患者さんに安心と安全を提供できる地域完結型医療を構築するため尽力してまいります。



お忙しい中ご参加くださいました皆様、ありがとうございました。

連携登録医制度のご利用方法や新規登録方法については当院の地域医療連携室のホームページをご覧ください。地域医療連携室に直接お問い合わせください。

奈良医大 地域医療連携室 

第15回

地域医療連携懇話会

を開催いたします

開催日時：令和2年3月14日(土) 14時～16時 (受付 13時半～)

開催場所：奈良県立医科大学 大講堂 ※参加申し込み要

● 感謝状贈呈

● 講演

講演Ⅰ

アドバンスケア・プランニング(ACP)の実践と課題

一般社団法人奈良県医師会 安東 範明 副会長

講演Ⅱ

診療報酬改定の最新情報

奈良県立医科大学 公衆衛生学講座 今村 知明 教授

「地域医療連携懇話会」は県内の医師会・病院協会及び地域の医療機関・各施設の方々との病病・病診連携や介護連携の推進を目的として、開催しております。

医師をはじめ、多くの方々にご参加いただきますようお願いします。

診療科紹介

皮膚科



平素は当科の診療活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。

皮膚は単に体を包むだけではなく、生体の恒常性維持のために多岐にわたる役割を担っています。そのため、皮膚疾患も様々で、体の内部の異常が皮膚に現れることもしばしばです。当科はそのような皮膚のトラブル全般を扱う専門の診療科です。

入院診療では、帯状疱疹や蜂窩織炎などの感染症、集学的治療を要する皮膚悪性腫瘍、重症薬疹、自己免疫性水疱症、重症の円形脱毛症などの治療の他、リスクを伴うアレルギー検査などを行っています。また外来診療では、開業の先生方や市中病院から、診断や治療が難しい患

者さんを多数ご紹介いただいております。さらに、院内の他科との併診も多く、湿疹や皮膚真菌症などのcommon diseaseの診療も行っています。一方、当院の本分である特定機能病院としての役割を果たすため、症状の安定した患者さんにつきましては、逆紹介を進めており地域の先生方には、日頃何かとお世話になり、感謝申し上げます。

当科では多数の学会専門医、指導医をはじめ、皮膚免疫・アレルギー学、微生物学、皮膚病理診断学、皮膚エコー診断学などに精通した医師が在籍し、質の高い医療の提供に努めております。これからも当科の診療活動にご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

形成外科



平素は当科の診療活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。奈良県ではまだまだ認知されていないこともある形成外科について簡単に紹介させていただきます。

形成外科とは、先天的または後天的に失われた組織を、機能の回復だけでなく形も正常に近い状態に再建し、QOLの向上に貢献する専門外科です。当科では以下のような疾患に対して形成外科専門医・指導医を中心として診療を行っております。

1) 熱傷 2) 顔面の骨折、外傷 3) 口唇裂、口唇裂術後鼻変形、多合指(趾)症、臍ヘルニアなどの顔面、手足、体幹の先天異常 4) ほく

ろ、あざや粉瘤、脂肪腫などの良性腫瘍 5) 皮膚悪性腫瘍 6) きずあと、ケロイド 7) 褥瘡、重症虚血下肢 8) 頭頸部外科、乳腺外科等他科悪性腫瘍切除後の再建 9) その他：陳旧性顔面神経麻痺、眼瞼下垂、逆まつげ、陥入爪・腋臭症など。これらの疾患に対し、手術だけでなくレーザー、薬剤や装具などを用いた治療も行っております。上記以外にも形成外科の対象となる疾患がありますので、わからないときはお気軽にお問い合わせ下さい。

地域の先生方と協力しながら、中核病院として信頼いただける医療を提供できるよう努力していく所存です。皆様のご協力をいただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室より

予約システムをご利用いただきありがとうございます

当院では初診紹介患者さんの紹介目的に合った専門医による診療、受付手続き・待ち時間の短縮のため、予約システムの利用を推進しております。

予約方法はFAX・オンライン^(※1)・専用ダイヤルによる患者さんからの電話^(※2)の3種をご用意しておりますので、状況に合わせてご利用ください。

(※1 要利用登録)

(※2 連携登録医の患者さんに限る)



緩和ケアセンター



平素は緩和ケアセンターの活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

緩和ケアセンターでは、当院の各診療科からご紹介いただいた患者さん・ご家族を中心に、外来診療や病棟回診を行いながら苦痛の緩和につとめています。私たちは、「患者さん・ご家族がいつでもどこでも安心して緩和ケアを受けることができ、希望をもってより豊かに生活できるよう支援すること」をミッションとし、多職種チームで診療やケアにあたっています。

以前は、「緩和ケア」＝「終末期の医療」ととらえられていましたが、今ではどんな時期においても必要な医療と考えられるようになってきました。そして、緩和ケアの対象は決してがん患者さんだけではないと考えております。緩和ケアは、あらゆる病気に伴って生じる身体的、心理・社会的、実存的（スピリチュアル）な苦痛を緩和し、生活の質の向上をめざす医療です。私たちは、患者さんやご家族の苦痛がどこから来ているのか、どうすれば和らげることができるのか、ということに向き合いながら、

可能な限りその人らしく生活できるためのお手伝いをしています。

実際の診療では、薬物療法で痛みなどの症状を和らげたり、コミュニケーションスキルを用いて心のケアを行ったり、症状の緩和因子に働きかけるケアを提供しております。また、症状緩和に難渋するケースでは、アロマセラピーを取り入れた非薬物療法的な介入も行っています。その他、病気とともに生きる中で、患者さん・ご家族が病気とどう向き合いたいのか、どんな時間を過ごしたいのかを支える意思決定支援、病状の悪化に伴う苦痛の中で生きる意味を見いだせなくなるような苦悩に対して、主治医をはじめ患者さん・ご家族と関わっているスタッフとともに1日1日に希望を見いだせるようなケアを模索しています。

これからも院内だけではなく、地域で医療を行っている皆さまと一緒に、患者さん・ご家族のQOLの向上を目指してシームレスな緩和ケアに取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

精神科



平素より当科に患者さんの紹介ならびに診療活動にご協力を頂き、誠にありがとうございます。

2013年に「がん」「脳卒中」「急性心筋梗塞」「糖尿病」の4大疾病に精神疾患が加わり、5大疾病に位置付けられました。職場でのうつ病や高齢化に伴う認知症の患者数が年々増加し、国民に広く関わる疾患として重点的な対策が必要とされており、患者の早期発見、早期治療、それに伴う病診連携が求められています。

当科におきましては、基幹型認知症疾患医療センターの指定を受け、高度な鑑別を必要とする認知症診断と治療を行っております。また、児童思春期専門中核機関として児童思春期外来を開設し、県下で唯一入院の受入を行っており、小児期から老年期までの診断、治療が可能です。

入院病棟は精神科救急・合併症入院料算定病棟、精神科救急入院料算定病棟があり、県下の精神科3次救急を担っていると共に、身体合併症や難治例（修正型電気痙攣療法、治療抵抗性統合失調症患者治療薬クロザリル投与の対象患者）の方の受け入れも行っています。

治療としては薬物療法に加え、入院患者さんを対象に疾患別の心理教育、外来患者さんのご家族向けの家族心理教育、精神科デイケアや退職者を対象としたリワークプログラムなど心理社会的治療なども行っております。

当科では、メンタルヘルスでお困りの方が速やかに医療にアクセスできるよう、初診の方は地域医療連携室へ受診予約をお申込み頂くか、水曜日を除く平日午前11時までに受付して頂ければ、当日対応をさせて頂いております。入院が必要な場合は診察後に入院予約を行い、順次入院をご案内しております。他機関からの転院のご依頼については精神科相談室にて精神保健福祉士が窓口となっておりますので、ご相談ください。

奈良県における中核病院、そして大学病院として、常に患者さんやそのご家族の生活場面を意識し、患者さんやそのご家族の抱える課題の本質の解明と、必要とされる医療をいかに提供するかを絶えず考え実践を行っていく所存です。

これからも当科の診療活動に、ご理解ご協力のほど何卒よろしくお願い致します。

奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室 〒634-8522 奈良県橿原市四条町840

TEL:0744-22-3051(代) / 0744-29-8022(直通) FAX:0744-23-9923

編集・発行 奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室

URL <http://www.named-u.ac.jp/~chiiki/>

発行/2020年2月